

# けいはんな View 特集：けいはんなと万博 住友童話館

令和4年(2022)12月発行：公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構

けいはんな View は学研都市の新しい動きや関係機関の皆様方の活動を始め、地域の文化や催事情報などをお届けする学研都市の広報誌(年間4回発行)

EXPO 2045 において大阪・関西万博の特集を組まれ、その一つ「万博いまむかし⑦」が掲載されました。

今回は EXPO '70 パビリオン編：「住友童話館(美と愛と希望の泉)」を紹介。

「住友童話館」は、空に浮かぶ雲のように、宇宙ステーションのように見える。目まぐるしく発達する科学文明に疲れ始めた人々に安らぎと豊かな情操を取り戻す広場として設計された。

リフトアップ工法で空中に浮かんだ巨大な9つの球体からなり、最上階ヘエスカレーターで上がるとお祭り広場の大屋根、万博会場が一望できた。

下層に降りるにつれ古今東西のおとぎ話が観れる。「コンピューターの天眼鏡」では映る顔認識をし、性格や音声を出す当時としては画期的だった。

地上部分の「ぱびっぺ劇場」では映像と人形劇の融合スペクタクルショーを展開。

「こどもに希望を、大人に童心を」キャッチフレーズに童話を通して科学技術と人間の心、芸術を融合させたいずみ野広場だった。

これから、昨今の AI や VR, メタバースといった世界を駆使して、どう人間のいのちをかがやかせてくれるだろう。・・・



万博いまむかし⑦ EXPO'70パビリオン編:住友童話館 美と愛と希望の泉

リフトアップされた夜間の住友童話館

「住友童話館」は、空に浮かぶ雲のように、いや宇宙ステーションのように見える。高度経済成長期のまっただ中、科学文明のめまぐるしく発達に疲れ始めた人々に、ひとときの安らぎと豊かな情操を取り戻すひろばとして、設計された。さらリフトアップ工法で空中に浮かんだ巨大な9つの球体群(7つは展示室、残りの2つは展望室)は三角形の複合柱に固定され、中心の球体ドーム(透明ステーション)の最上階ヘエスカレーターで上ると、お祭り広場の大屋根をはじめ、万博会場が一望できた。ここから、フラットな床り下を伝って、下層に降りるにつれ、古今東西のおとぎ話が観る者ごとくこにした。展示の前半では東西の名作人気童話約50話がとりあげられ、照明・電動舞臺装置など、新しい技術を使ってメルヘンの世界が再現された。後半は古典童話を、最新技術を使って超現代的感覚で再現する試みがなされ、ひととき目をひいたのが「コンピューター

の天眼鏡」だった。コンピューターを易者の天眼鏡に見立てるデモンストレーションは、カメラで目鼻口の位置をパターン認識してドット状に画像処理し、プリントアウトするという当時の情報処理技術では画期的なものであった。さらに、輪郭パターンにより人間の基本性格を著名人にあてはめて分類し、音声出力するという、性格診断実験も行われた。外国人の顧客には、ホステスが結果を説明することで、1日平均100人以上の利用があったという。もちろん、機械だけではなく、人が織りなす繊細な技術も住友童話館の思い出だった。「童心養茶室」では、灰谷健次郎さん指導のもと、こどもたちが描いた「動物と花火」が、1万人の母親たちが絵のタッチそのままに2年がかりで刺繍して、大屋根に仕上げられた。重心と、うしろの透明ドームの青空は、多くの記念撮影の背景として映える場となった。地上部分の「ぱびっぺ劇場」では、映

像と人形劇の両方を融合した新しい試みのスペクタクルショーが展開された。市川崑監督の「つる」は後半、映画作品にもなったが、つるの恩返しに着想を得て、聲の中からあらわれる美女「つる」をはじめ、織で糸を折る織は、人形師竹田篤之助による糸繰り人形の華麗な動きで表現された。竹田人形盛の熱演による公演は万国博會期中1,442回におよび、毎回観ればかりの拍手であった。住友童話館は、一こどもに希望を、おとどに童心を一をキャッチフレーズに、童話を通して、科学技術と人間の心、芸術を融合させた、美しく愛に満ちた泉の広場だった。さて、近未来、現代のAIやVR、メタバースといった世界を駆使しながら、人間のいのちをどうかがやかせてくれるだろうか、新しい希望の泉に期待したい。

※このページでは、2022年度版として、1970年には生まれていなかった赤坂君が、EXPO'1970にあったオリオンを、左図の赤坂君、右図の赤坂君と置き換えてお楽しみください。(作成協力：赤坂君2-2部公民館職員様より)

住友童話館 (抜粋、当時記録をもととする、敬称略)
住友児童委員会委員長：浅井孝二(住友銀行副頭取)ほか、参加企業：住友化学工業株式会社46社、総合プロデューサー：小谷正一
監修：元正正(住友商事) 建築設計：大谷幸夫、松永文夫ほか、施工：(株)乃村工務社、日本電気(株)
コンピューターの天眼鏡(赤坂君)：住友化学工業株式会社ほか、童心養茶室制作班：灰谷健次郎(神戸市立東灘小学校教諭)
マシヨウ：演出：市川崑、脚本：藤村俊一、脚本：和田英十
第2部(パビリオン)の冒険、脚本：谷川俊太郎、人形操演：竹田篤之助(竹田人形師)、竹田篤之助(竹田人形師)ほか
ナレーター：芥川比呂志、音楽：山本嘉純、アニメーション：和田誠
<テーマソング> 作曲：和田誠 翻曲：八木正夫 作詞：源田東夫(小さいびのネネ)、井上ひさし(パビリオンワウワマーチ)
入館費：大人65、153,990円(1970年9月13日<日本万国博開場日>)
参考文献・資料
『A little book of fables. Sumitomo Pavilion 1970』(1970、Dentsu Advertising Inc.) 大阪府立中之島図書館(日本万国博覧会参加館資料)所蔵
『住友童話館 EXPO'70(住友童話館の記録)(1971、1、住友児童委員会事務局) 大阪市立図書館所蔵(国内複製のみ)
『東京加入人形(1998、3、竹田篤之助編著)発行 漢方市立図書館(岡山県) 福井市立図書館(富山県) 津島市立図書館(岐阜県)所蔵
『完全 市川崑の伝説たち』 藤久雄、多摩 ちゅうの市川崑の世(2015 市川崑、森田明彦、井原社) 従来立証書情報館所蔵
『NEC 日本電気技術(日本電気株式会社) 国立国会図書館デジタルコレクション(国書館)個人送付資料
関連記事収録：巻末100(1970、11) 住友童話館の経緯(原田篤彦) 住友童話館の背景(個人送付資料)
住友童話館開業用コンピュータシステムについて 映像情報誌をみる新しい技術(源田東夫)
『電気協会雑誌(日本電気協会) 国立国会図書館デジタルコレクション(インターネット)公開
関連記事収録：巻末55(1970、1) 『万博出展計画めぐり』(7)万国博覧会と住友童話館(住友児童委員会資料より)



EXPO '70「住友童話館」 写真撮影：厚見昌彦氏